

コンクリート主任技士試験完全攻略問題集 2011 年版 訂正箇所

2011 年 10 月 13 日

読者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、下記のとおり修正してお読み下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

12 ページ 〔問題 - 1〕の解説 (3) 2 行目 下線部を訂正

……マスコンクリートに使用される中庸熟ポルトランドセメントと考えられる。

51 ページ 〔演習問題 A - 1〕の問題 (4) 1 行目 下線部を訂正

……高炉スラグの塩基度が JIS で 1.6 以上と……

51 ページ 〔演習問題 A - 1〕の解説 (4) 2 行目 下線部を訂正

……その塩基度は 1.6 以上でなければならないと……

81 ページ 〔D - 3〕の解説 (4)

$$1000\text{mm} \times 20 \times 1 \times 10^{-5} = 1000 \times \frac{20}{1000000} = \frac{20000}{100000} = 0.2\text{mm}$$

103 ページ 〔F - 6〕の解説 (1) 2 行目 下線部を訂正

……コンシステンシーが小さく、材料分離に対する抵抗性が小さい。また、降伏値、塑性粘度がともに大きいコンクリートは、材料分離に対する抵抗は大きいが、コンシステンシーが大きく取扱いが……

110 ページ 〔演習問題 F - 3〕の解説 (3)

(3) スランプはコンクリートの自重による最終的な変形量を意味し、単位水量の多いコンクリートはスランプが大きい。スランプ試験において、試料の変形は考えている断面から上の部分の自重による最大せん断応力が変形の進行に伴う断面増加により次第に減少し、降伏応力に等しくなった時に静止すると考えることができる。したがって、スランプは降伏値と密接な関係があり、スランプが大きい場合は降伏値は小さくなる。しかし、塑性粘度はスランプとほとんど影響なく、最終変形に到達するまでの時間と関係がある。

121 ページ 〔G - 2〕の (2) 2 行目 下線部を訂正

……値で、圧縮強度より小さい。

129 ページ 〔G - 10〕の解説 (1) 4 行目 下線部を訂正

……砂岩で $8.1 \sim 9.7 \times 10^{-6}$ °C、石灰石で $5.8 \sim 7.7 \times 10^{-6}$ °C 程度であり、……

168 ページ 〔I - 7〕の解説①

$$\text{細骨材率 (s/a)} = \frac{S_v}{S_v + G_v} \times 100 \text{より、}$$

188 ページ 〔J - 5〕の解説 (2) 4 行目 下線部を訂正

……空気量の許容範囲は、6.0 ~ 3.0% となる。したがって、……

291 ページ 〔演習問題 M - 7〕の解説 (4) 7 行目 下線部を訂正

……示方書では 18 ~ 21cm、JASS 5 では 21cm 以下を標準……

330 ページ 〔演習問題 M - 46〕の (2) 1 行目 下線部を訂正

……注入速度が増加し、注入中にモルタルが分離しやすくなる。

364 ページ 〔演習問題 O - 3〕

正解 (3)